

1 学校教育目標

これからの未来を、生き甲斐をもって生きていくことのできる知・徳・体・情操の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざす。
 ・進んで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・「通いたい学校」：児童が安心・安全に過ごすことができ、「できた・分かった」を体感できる学校 ・「通わせたい学校」：開かれた学校を推進し、保護者・地域が児童の健やかなる成長を実感できる学校 ・「勤めたい学校」：教職員が協働し支え合い、児童の笑顔から活力をもらえる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で課題をとらえ、その解決に向かって粘り強く取り組み、解決していく児童 ・人や自然との豊かなふれあいを通して、互いに認め合い、励まし合い、尊重し合うことのできる思いやりのある心をもつ児童 ・健康な体の維持増進と心を鍛えることのできる児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・常に向上心を持ち、児童と一緒に伸びようとする教師 ・教材研究と授業改善に努め、児童に成就感と達成感を与えられる教師 ・優しさ、温かさ、厳しさをもって指導し、児童に「愛されている」と実感させられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は、明るく素直で礼儀正しい。新しい生活様式を守り、落ち着いて学校生活を送っている。学習にも前向きに取り組んでいる。
- ・主幹教諭2名、主任教諭4名を中心に全教職員が互いに学び合い、日々指導力の向上に努めている。
- ・地域、保護者は大変協力的で、「チーム双葉」が機能している。

【成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・基礎学力向上の取り組みにより、区学力調査の結果は十分である。
- ・アクションプランに示した8項目については概ね達成できた。双葉検定は低学年で課題となったため、方法を改善し言語事項の定着を図っていく。

重点的な取組事項－2 体力の向上

- ・体力向上の取り組みによって、体力調査では都の平均を上回る種目が多かった。
- ・学年によって差があるので、課題となる運動については、体育の授業や休み時間の活動で補っていく。

重点的な取組事項－3 豊かな心の育成

- ・学校生活の基本となることの定着は十分である。
- ・自己肯定感を高められるように、学校教育全般を通して様々な取り組みに務めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力の向上	○	○	○	○	○
3	豊かな心の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「基礎学力の定着」と「思考力・判断力・表現力の向上」		国語 84% 算数 86% 次年度想定問題で両教科 75%		国語 87.9% 算数 86.3% 2月の調査で2教科 75%		・区学力調査で両教科ともに目標値通過率を上回った。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 改善	朝学習 算数	全学年 算数	毎週 火曜日 朝学習 年回3回 の診断	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認 【使用教材】 東京ベーシックドリル、計算 プリント	学習プリント 内容の定着度 診断シート A、B、Cの 正答率	診断シートC 全学年正答率 80%以上	正答率 低学年 80% 中学年 70% 高学年 70%	診断シートの結果 は、学年が上がるに つれて落ちている。 個々の指導には活か せることが出来た。	△
2 改善	朝学習 漢字	全学年 国語	毎週 金曜日 朝学習	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 学習内容の復習・確認 【使用教材】 漢字の学習ドリル	漢字ミニテス トの定着 年3回の定着 度確認テスト	確認テストで 目標値70点を 上回る児童 80%	目標値通過児童 70%	目標値にやや足りな かった。書く活動を 増やしながらか定着を 図りたい。	△

3 継続	聞き取り 書き取り チャレンジ	全学年 国語	児童朝 会時 月1回	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 聞き取る力、書く力の向上 【使用教材】 児童朝会での校長講話	指定文字数以 上、2段落で まとめて自分 の考えを書 く。	指定通り書け る児童80%以 上	目標通過児童 低学年 80% 中学年 85% 高学年 85%	回数が増すごとに聞 いたことをまとめる 力が高まってきた。	○
4 継続	寺子屋 「ふたば」	全学年 希望者	月に1 ～2回 水曜日 午後 1時間	【指導者体制】地域協力 者・学生ボランティア 【取組のねらい・目的】 計算・言語事項の習熟 【使用教材】 漢字ドリル、算数ドリル、プリント	実施日数	年間12回以上 実施	年間15回の実施 毎回参加者30名程度	計画以上に実施。参 加者も毎回30名以上 であった。	◎
5 継続	家庭学習 習慣の確 立	全学年	家庭学 習	【指導者体制】担任 【取組のねらい・目的】 漢字・計算・学習日記を家 庭で取り組み、家庭学習習 慣を定着させる。 【使用教材】 漢字ドリル、算数ドリル、プリント	平日の家庭学 習10分×学年 宿題の提出・ 内容の確認	提出率90%以 上	提出率90%	学年での偏りも見ら れたが、全体の9割 は維持できた。 自主学習でAIドリル に取り組む児童もい た。	○
6 改善	授業改善	全教員	授業公 開年5 回 小中連 携授業 3回	【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 基礎学力向上へ向けた、教師 の指導力の向上を図る。	授業に関す る、保護者・ 児童アンケー ト	保護者・児童ア ンケートで授業 に関する満足度 85%以上	保護者 85% 児童 92%	各年次研修、小中連 携授業、区小研授業、 研究会の授業と公開 する授業を通しなが ら授業力を高めてき た。	○
7 継続	ICT教 育の推進	全教員	通常授 業	【指導者体制】全教員 【取組のねらい・目的】 児童のICT活用能力を 向上させる。教員のICT 活用能力を向上させ、学力 向上を図る。	教員アンケート 児童アンケート (3年生以上)	タブレットを毎日 使用した教員 が90% タブレットを上手 に使う学習 できる児童 90%	教員 92% 児童 93%	教員の使用頻度が上 がっている。 低学年児童も使用す るようになってきて いる。情報収集以外 の学習でも活用して いる。	○

8 新規	A Iドリル	全学年	朝学習 家庭学習	【指導者体制】全教員 【取組のねらい・目的】 基礎学力の定着。A Iドリル の各教科の問題に取り組 む。年3回強化月間を設定 する。	学習に取り組 んだ問題数	強化月間6月、 11月、2月で問 題数300問以上 の児童90%以 上	目標値通過児童 6月 60% 11月 85%	強化月間の他、家庭 学習に取り組んだ り、自主学習で取 組んだりする児童も いた。	△
---------	--------	-----	-------------	---	-----------------	---	------------------------------	---	---

重点的な取組事項－2		体力の向上				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
心身ともに健康な子どもの育成		運動が好きと答える児童90%以上 体力調査で区平均を上回る種目6割以上	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きと答える児童85% 区平均を上回った種目7割 	体育の授業、持久走週間・縄跳び週間・外遊び週間の取組の成果といえる。	○	
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度	
体力や運動能力の向上	運動、体力向上に関する保護者・児童アンケートで肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業改善（実技研修） 課題となる運動に対する指導の重点化 	<ul style="list-style-type: none"> 運動、体力向上に関するアンケート肯定的な回答 保護者 90% 児童 85% 	体力調査の結果を分析し、授業を工夫して取り組んだ。	○	
日常の遊び時間の確保	「外遊びウィーク」に参加児童90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 中休み20分間、昼休み15分間の休み時間の確保 年2回の「外遊びウィーク」の実施 アンケートの調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びウィークを2回実施。 休み時間に外でよく遊んだという児童92% 	外遊びの学年の制限を緩和したことで、多くの児童がよく遊んでいた。	○	
持久走・縄跳び週間	持久走大会・縄跳びカードで自分の目標をクリアした児童70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 持久走大会での目標タイムを設定し、練習に取り組む。 縄跳びカードの目標級を設定し、練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 持久走大会で目標タイムを上回った児童85% 縄跳びカードの目標級を上回った児童75% 	目標を設定することで、意欲的に取り組む児童が増えた。	○	

重点的な取組事項－3		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を大切にする態度や思いやりの心の育成 ・自己肯定感の向上・決まりを守る態度の育成 		「心の教育」に対する保護者アンケートで肯定的な回答 90%以上	・保護者アンケート肯定的な回答 90%	心の教育で様々な取組を行ってきた。決まりを守る態度の取組を継続する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	心のアンケート 2 回を比較し、2 回目で学級生活満足度が 2 割向上	・心のアンケート実施 (6 月・11 月)	・心のアンケートで学級生活満足度が、 2 割向上した学級は 1 学級 1 割向上した学級は 6 学級	11 月の学級満足度で多少上がったが、昨年度とほぼ同じであった。6 月のアンケートを基に個々への適切な対応を図っていく。	△
いじめ等問題行動の未然防止・早期発見・迅速な対応	いじめ解決 100%	・年 3 回以上のアンケート実施 ・年 3 回以上の聞き取り調査実施	・6 月 11 月 2 月にいじめアンケートと聞き取り調査 ・いじめ認知件数は今年度 19 件、すべて解決しているが経過観察中 (3 ヶ月以上) が 4 件	早期に対応し、ほとんどが解決している。その後も見守りを継続している。	○
あいさつの励行	あいさつに関する保護者・児童アンケートで肯定的な回答 80%以上	・教職員による挨拶の手本を示す。 ・朝会で校長や当番の教員からの講話 ・計画委員会の取組「あいさつ運動」	・計画委員が中心となって校門での朝の挨拶運動、挨拶週間を実施。全校児童の当番制を実施。 ・保護者アンケート 86%が肯定的な回答	全校児童参加の朝の挨拶を実施。より正しい挨拶を身につけさせたい。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・学力向上アクションプランについて

【課題】

- ・国語の目標値通過率が87.9%であった。本校の目標値(84%)を達成するとともに区平均(83.7%)を上回った。昨年度より3ポイント上がっている。特に「書くこと」で区の平均を大きく上回っている。学年による差があり、4年生は「書くこと」「活用」と記述式の習熟と「説明的な文章」の読解が低い。6年生は「応用」に関する習熟がやや低い。
- ・算数の目標値通過率が86.3%であった。本校の目標値(86%)を達成するとともに区平均(83.8%)を上回った。学年の差があり、4年生は思考・判断・表現が低く、特に「図形」「測定」の領域の習熟が低い。

【対策】

- ・国語科への取組は、朝学習の時間に漢字の学習、話を聞き書く学習を継続する。さらにA Iドリルで、言語事項に関する学習を行う。
- ・書くことについては、授業でも書くことを意識し、感想や考えを書く活動を多く取り入れる。物語文では主題を、説明文では要旨を授業のまとめとして書くようにする。交流の場をもち、児童が互いに表現力を高めていけるようにする。
- ・物語文の音読や詩の暗唱の充実を図る。説明的な文章では、小段落毎の内容を正しく理解できるよう丁寧に扱うようにする。
- ・読書の時間、朝読書、隙間時間を活用しての本に触れる時間を取るとともに、学校図書館の活用を増やし、本を読む習慣を身につけさせる。
- ・算数科への取組は、朝学習で東京ベーシックドリルとA Iドリルに取り組み、基礎学力の定着を図る。A Iドリルは家庭学習でも取り組む。
- ・低学年、中学年の図形や測定の学習では、計測や具体物操作を増やした授業を行う。日常生活の中でも、学んだことを生かせるようにしていく。
- ・全学年で、数学的な思考力が高まる授業を展開する。多様な解決方法を考えたり、説明したりする学習を多く設定する。
- ・習熟の低い児童に、個別に対応(放課後教室、そだち指導、家庭学習、長期休業中の学習)しながら弱点を補充していく。放課後教室には、担任の他に専科教諭、特別支援教室担当教諭、管理職も入る。

重点的な取組事項－2 体力の向上

- ・健康の増進に向け、体育の授業や休み時間の充実を図ってきた。
- ・体力調査では、男女ともに都・区の平均を上回る種目が多かった。握力・上体起こし・ボール投げは全学年で都・区の平均を上回った。
- ・休み時間には、外遊びウィーク、持久走週間、なわとび週間を工夫して実施することができ、児童は運動することへの喜びを感じながら意欲的に取り組むことができた。

重点的な取組事項－3 豊かな心の育成

- ・心のアンケート(QUテスト)で「学級生活満足群」に位置する児童を増やしたかったが、2回目で大きく増加した学級は1学級であった。次年度も継続して心のアンケートを重視していく。
- ・いじめについては、組織として迅速に対応している。いじめを起こさない指導として、心の教育に励む。
- ・あいさつの励行として、全校児童による朝のあいさつ当番を実施した。見本となるあいさつを心がけることで、日頃のあいさつの仕方にも変化が見られてきた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

学校生活が従来の形に戻りつつあります。全く元に戻すのではなく、よさや意味を考え、より精査した活動ができるようにしていきたいです。

今年度は、土曜授業の公開、運動会、学習発表会の参観について制限をなくしました。より多くの保護者に、子供たちの姿を見せることが出来ました。他の学年を見ることで、発達段階の違いやそれぞれの学年像が分かり、家庭の教育の参考になったことと思います。

まだまだ感染症の心配はありますが、次年度も感染症対策には注意しながら、子供たちの学びとなる活動を増やしていきたいです。次年度も「知・徳・体」の調和の取れた児童の育成を目指して全教育活動に取り組んで参りますので、保護者、地域の皆様には、引き続き「チーム双葉」の一員として、ご支援とご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

I C T機器の普及によって、タブレット端末を学習以外でも活用している姿が多く見られています。低学年の児童も操作に慣れてきました。学校で使用の他、家庭でも家庭学習としての活用をお願いします。

今年度の学校経営計画の重点的な取り組みの3つでは、十分な成果がありました。来年度も、本校の学校目標である「・進んで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・元気な子」の達成に向けて教職員一同励んでまいります。